



明峰

令和7年12月22日

第21号

校長 岡野利男

*黒板の写真を並べて見てみると、その時々で傾きがバラバラであり、酔いそうな感じです。字が下手なのはどうしようもできませんが、せめて写真だけは真っすぐに写さないといけないと反省しました…。

～2学期の校長室黒板 その②～

～一期一会～

一生に一度の出会いがないから出会えた人を、出来事を、「二度目はないかも」と大切にする。
広島で山口で、福岡で一期一会を意識する。
待っている街に、人に優しさとさわやかさをプレゼントする。
第二学年の挑戦を先輩が優しく見守り後輩がエレベーターに応援する。

～次へ～

脣の上下は今週末から冬。だから今、春、夏、秋の数々の学び、体験をしっかり振り返る。
掴んだものは何か、更なる実りのためにいかにあるか。
そして、足らすところをどう補うか。
備えの季節「冬」の入口に立つ君に考えてほしい。

～考査の存在～

考査と仕事との共通点。
何日も前から準備を重ねる必要、問題(状況)をよく読み、知識を総動員して時間内に一つの解を導き出す責任。
大人に定期考査はかけけど、仕事は考査のようなもの。
考査をどう乗り越えるかは、人生の試金石なのだと思います。

～温もりのある学校～

人権について学ぶ場面が仕組まれて一週間。
自他を大切にするとは、どういうことなのか。
温もりのあるつながりとは、どういう関わりなのか。
2学期を通じて道徳は「生徒同士の相互承認」
飾り言葉ではなくね。「人権」を学ぶ一週間であれ。

20号に続いて、今号も校長室黒板から、長かった2学期を振り返ります。

10月27日(月)～の週 一期一会

29日から31日までの三日間、2年生は修学旅行に出かけました。修学旅行では、数多くの人と出会います。そして、その数多くの出会いのほとんどは、長い人生で一度きりの出会いとなる可能性が高い。

出会った人に優しさとさわやかさをプレゼントする。私が一番大切にしてほしいことです。

11月4日(火)～の週 次へ

11月7日(金)が立冬であったために記した黒板です。「冬」の寒さは多くの人から好まれるものではありませんが、記したとおり冬は備えの季節、蓄えの時期です。

その冬に向かう中学生の凛とした姿を求めての黒板でした。余談ですが、この週、そして、この前の週も急に冷え込みが厳しくなったことを覚えています。

11月10日(月)～の週 考査の存在

11日(火)と12日(水)に、期末テストが行われました。“人生の試金石”なんて、やや大袈裟に聞こえるでしょうが、考査と仕事には共通点があります。大人は毎日が試験みたいなものですよね。もちろん、生徒たちは「何点とれたか」が何より気になるところでしが試験を解くことを通して培うべき力にも目を向けてほしいのです。

11月17日(火)～の週 温もりのある学校

特別支援学校生との交流学習、データDV防止教室、車いすバスケット体験等々、人権についての学びが各学年で設定された週でした。

これを機に、もう一度「生徒同士の相互承認」という言葉を意識してほしいとの願いを込めてこのメッセージとしました。すべての生徒は【個人】として尊重されること、今一度確かめたいと考えたことからの黒板です。

～諦めるはあきらめないの一歩目～

「諦」めると、字は言(ヒキリ)と帝(最高の位)とで成る。
本来、真理を見極めるという意味のこの字が「め」のままで
受け入れる。ことから転じて、今用いられる意味に。
一時は低迷したV・ファーレンがホーム最終戦で首位へ。
現状を〔諦めて=受け入れて〕闇々継続した姿に手びく…。

11月25日(火)～の週

諦めるはあきらめないの一歩目

サッカーファンではない私ですが、23日(日)のV・ファーレンのピーススタジアム最終戦には感激しました。いや、その試合だけではなく、シーズン序盤にあれだけ苦しんだチームが決して、あきらめなかつた姿勢に胸を打たれました。「諦める」はそもそも真理を見極めるという仏教の言葉から…。

J1昇格の来年が楽しみですね。

適千里者 三月聚糧 『莊子内篇』より

〔千里(せんり)を適く(ゆく)者
三月(みつき) 粧(かて)と聚屯(みつむ)。
つまり、千里の長い旅に出る者は、3ヶ月という
長期間にわたる準備が必要であるということ。
卒業まで100日=約3ヶ月、今その準備が始まる。〕

12月1日(月)～の週

適千里者 三月聚糧

まさに卒業まで残り100日となった12月1日、生徒に届けたい言葉として送りました。「千里を行くもの みつき 粧をあつむ」覚えやすい響きも手伝って、若い時に出会ったこの言葉がとても好きです。様々な場面で様々な状況下で戒めとなりそうです。

～日本国憲法 13条と14条～

13条 すべて国民は、個人として尊重される。
14条 すべて国民は、法の下に平等であつて、
是非この条文を讀んでみよう。挑戦してほしい。
人権尊重の基盤は、知識と態度と感受性。
その知識の核となるこの条文を携えることを求める。

今週も進捗

現在15名

年内に60名

年度内に150名

12月8日(月)・15日(月)の週

日本国憲法13条と14条

前号でも紹介したメッセージです。憲法は13条と14条に限らず、どの条文も大切なのですが、人権週間にちなんでこの2つの条文に取り組んでもらいました。現在、合格者は3年生が圧倒的ですが、1・2年生にもちらほら出てきました。年度末まで、受け付けますので、是非挑戦を促してください。

～巳年の終わりに～

巳年は脱皮の年、つまり更なる成長への
準備の年、その長い1年がまもなく終ゆる。
あなたに生まれた、更なる成長の「標」は何か。
そのためにはどんな外皮を剥がしたか。
今一度振り返ることで、勢いよく動く午年に進む。

12月19日 現在 79名

目標 年度内に150名

12月22日(月)～の週

巳年の終わりに

「令和8年は午年」ということを最近見聞きすることが増えたことから、「あ、そうか、今年は巳年だった」と思い出した私です。

保護者の皆様、今年一年、次なる成長に向けて剥がした外皮(古い自分を捨てる)にはどんなことがありましたか。お子さんはいかがだったでしょうか。年の瀬の家族の話題にしていただければ。

*学校だよりの20号と21号で、2学期の17枚の黒板を紹介してまいりました。

年度当初は「生徒の誰か一人でも読んでくれたら嬉しいのだけど」の謙虚な思いでいなければと思って始めた黒板ですが、徐々に、『校長の思いとして、一人一人の生徒にも・先生にも考えてほしいな…』という図々しさが頭をもたげてくるようになり、学校だよりにまで紹介し、我ながら品位を欠いたものだという思いも消えない週末でした。先週末の20号で「来週、続きを書く」などと言ってしまったものだから、21号もその続きで出さざるを得ませんでした。お許しください。